

二化螟虫の集団防除について (第2報)

ツマグロヨコバイの越冬と萎縮病の発生について

堀 切 正 俊*

HORIKIRI, M. On the Large-Scale Control by Means of Insecticide Application Against Rice Stem Borer. (II)

On the relation between the hibernation of the green rice leaf hopper and the occurrence of rice dwarf disease.

30年度、薩摩郡鍾胎町牟礼北で二化螟虫第二化期に集団防除を実施し、螟虫、ウンカ類に対する防除効果については、その概要を第1報で報告した。その後、防除により、ツマグロヨコバイの密度及び萎縮病の発生が如何なる動きを示すかを知るため、収穫期より翌春に亘つて下記の調査を行った。即ち、ツマグロヨコ

バイについては、11, 12, 1, 3, 4, 5月の6回、捕虫網による掬取調査を、又萎縮病は30年8月、31年8月の2回、100株について発病調査を行った。

成績 ウンカ類の越冬状況を種別に調査した結果は次表のとおりである。

棲息密度の時間的消長 (25回往復掬取)

調査区	調 査 日	ツマグロヨコバイ			セジロウンカ			トビイロウンカ			ヒメトビウンカ			備 考
		A	L	T	A	L	T	A	L	T	A	L	T	
防 除 区	11.24	2.5	0.1	2.6			0	0.2		0.2	0.1		0.1	畦 畔
	12.19	1.0		1.0			0		0				0	〃
	1.19	1.1		1.0			0		0				0	休閑田
	3. 8	0.2		0.2			0		0	0.1			0.1	〃
	4.18	18.6		18.6			0		0				0	〃
	5.29	14.2	0.1	14.3	2.4		2.4			0	2.1		2.1	苗代初期
対 象 区	11.24	18.2		18.2	0.4		0.4			0			0	畦 畔
	12.19	0.2		0.2			0		0				0	〃
	1.19	2.3		2.3			0		0				0	休閑田
	3. 8	9.0		9.0			0		0	1.0		1.0	〃	
	4.18	30.6		30.6			0		0	0.4		0.4	〃	
	5.29	37.2	35.2	72.4	5.8		5.8			0	10.8		10.8	苗代初期

萎縮病発生状況

調査項目 年月日	防 除 区		対 象 区	
	発病株率	発病基率	発病株率	発病基率
30. 8. 27	15.0	3.07	8.4	1.27
31. 8. 3	7.7	1.31	17.4	3.43

考察 ツマグロヨコバイは、防除区の棲息密度を対象区に比べると、12月を除き $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{3}$ という低い密度で経過しており、又萎縮病の発生は防除区で30年度15.0%の発病株率が7.7%と減少しているが、対象区では8.4%から17.4%と逆に増加している。

*鹿兒島縣農業試験場